

沖縄語の学習における漢字の用い方の原則(4枚)

2007年6月8日

沖縄語研究家 船津好明

沖縄語の音は仮名で表します。文は仮名表記を原点に置き、読み手の水準に合わせて漢字をほどほどに取り入れます。漢字には必ず仮名を振ります。私的な文は別です。なお、漢字の使用は選択ですから、使いたくない場合は仮名のままでよいことは当然です。

学習のための漢字は、一字ごとに読み方が明示されることが原則です。近年、沖縄語への関心が高まる中、個々の漢字の読み方が不明な書法が見られますが、そういう書法は規範性に欠け、学習には不向き、広まると沖縄語を混乱に陥れる恐れがあります。

1、学習に不適切な表記の実例

- a、^{わらびぬくる}少年時代 b、^{うちゃぬみかた}御喫茶法 c、^{やーむっちょーるぬなく}主 婦 d、^{じんみ}協議 e、^{ゆー}社会
f、^{ちから}本格的 g、^{やちむんしえーく}陶 工 h、^{じんぬくばいかた}予 算 案 i、^{うむい}愛着 j、^{がっていん}承諾

これらは実際に使われている教材の中から抜粋したものです。この種の表記は枚挙に暇がありません。

2、上のように書く背景

「わらびぬくる」を例に説明します。書き手は、「わらびぬくる」の意味を共通語で考えて、少年時代が頭に浮かんだので「^{わらびぬくる}少年時代」と表記したものと思われま。もし、書き手が少女時代を思えば「^{わらびぬくる}少女時代」と書き、辛かった戦争中に思いを馳せれば「^{わらびぬくる}戦争中」と書き、子供の頃住んでいた鹿児島県の印象が強ければ「^{わらびぬくる}鹿児島県」と書く理屈です。そして書き手は、これなら説明しなくても意味が解る、わざわざ共通語に訳さなくて済む、とこの書法の利点を説きます。つまり漢字を、読ませるためではなく、共通語での意味を示そうという意図なのです。しかし、こういう書法は、学習者にとっては漢字選択の規範性に欠け、客観性がなく、沖縄語の発展のためにはなりません。このような形で漢字を使うのは反対、むしろ全て仮名で書く方がましだ、と主張する人さいます。

問題は次のように整理できます。

書き手は、沖縄語を共通語で思考しています。沖縄語は共通語と関係が深いことは確かですが、共通語に従属するものではありません。沖縄語は沖縄語で考えるべきです。

個々の漢字の読み方が不明で規範性もなく、学習者が自ら使うのは困難です。

一つの沖縄語をイメージする漢字を、思いつくままに当てるのは書き手の勝手であって、学習価値を下げます。例えば、「社会」は文献によって色々な沖縄語に当

てられ、「^{ゆー}社会」、「^{しきん}社会」、「^{しけー}社会」などとなっていて、学習者は迷うばかりです。

「少年時代」は書き手の「わらびぬくる」の状況を共通語で説明したもの、つまり共通語への意識です。翻訳は本来の表記とは別に考えるべきものです。

3、適切な書き方

「^{わらび}わらびぬくる」は沖縄語として「^{くる}童ぬ頃」とするのが解り易く、最善です。

「わらびぬくる」の意味や内容がどうであるかは、別のことです。

以下に前記の a~j について、書き方の是非を対比してみます。

x は共通語で思考したもの、 は沖縄語で思考したものです。

- a x ^{わらびぬくる}少年時代 ^{わらび}童ぬ頃、 b x ^{うちやぬめみかた}御喫茶法 ^{ちや}茶ぬ^{かた}飲み方、
- c x ^{やーむ}主^{ちよー}ちよー^{ゐなく}婦 ^{やーむ}家持^{ちよー}ちよー^{ゐなく}女、 d x ^{じんみ}協議 ^{じんみ}吟味、
- e x ^{ゆー}社会 ^{ゆー}世、 f x ^{ちから}本格的 ^{ちから}力入って、
- g x ^{やちむんしえーく}陶工 ^や焼ち物^{むんしえーく}細工、 h x ^{じんぬくばいかた}予算案 ^{じん}銭ぬ^{くば}かた^{かた}配い方、
- i x ^{うむい}愛着 ^{うむ}思い、^{うむ}想い、 j x ^{がっていん}承諾 ^{がっていん}合点。

4、「^{わらびぬくる}少年時代」としては絶対に悪いか

絶対に悪いと言うわけではありません。表現は自由であり、文学的場面ならよいでしょう。筆者が不適当と言ったのは、学習においてはという意味です。

共通語においても「^{ビール}麦酒」、「^{パラダイス}楽園」などの表現を見かけますが、初等の国語教育

には不適切です。書き手が特別の意図をもって書くならよいでしょう。「^{わらびぬくる}少年時代」も

これに似た論理です。

以下、参考

(参考1) 実践指導者の思考の原点

色々な立場がありますが、大別すると次の二つになります。

沖縄語を共通語で思考する。

沖縄語は沖縄語で思考する。

筆者は を支持します。沖縄語の初学者には難しいかも知れませんが、指導者は の立場であるべきです。それが本来の姿です。未熟な人でも、ネイティブ話者でなくても、話せるようになれば沖縄語で思考できるようになります。

の共通語で思考するのは安易ですが、本来ではありません。沖縄語の歴史的経緯と現状を思えばやむを得ない面もありますが、少なくとも指導者は認識を切り替え、沖縄語は沖縄語で考える習慣をつけたいものです。

要は、沖縄語の思考基盤を沖縄語とするか、共通語とするか、という思想の違いにあります。それは無意識かも知れませんが、沖縄語の思考基盤は沖縄語であるべきことは言うまでもありません。

昔から沖縄語に関する研究や学問はすべて共通語で語られていました。現在でも多くの研究者や識者の思考基盤が共通語になっていて、そこから脱しきれず、「^{わらびぬくる}少年時代」のような漢字の使われ方となったと思われます。

(参考2) 学習者の立場

沖縄語を沖縄語で思考するのは、初期の学習者には困難でしょうから、共通語で思考することはやむを得ませんが、話せるようになれば沖縄語で思考することが出来るようになります。沖縄語を沖縄語で思考することは敢えて意識する必要はなく、話せるようになれば自然にそうなります。それが本来の姿です。

(参考3) 沖縄語を中心に考えると

「童」は沖縄語で「わらび」と読みます。共通語では訛って「わらべ」となります。「頃」は沖縄語で「くる」などと読みます。共通語では訛って「ころ」などととなります。沖縄語の「わらび」は共通語の「わらべ」が訛ったものという説は、共通語を中心とする考え方で、これを否定するものではありません。沖縄語と共通語は対等ですから、沖縄語を中心に考えれば、上のような言い方が成り立ちます。この考え方は、言葉の元が沖縄語か共通語(古い大和言葉)かという問題とは別のことです。

(参考4) 漢字使用の一般的指針

それでは、沖縄語文では漢字を安易に使えないのかということ、ある意味ではそうです。当て放題に当てるのは賛成できません。日本語も昔、漢字を当て放題に当てていた時代がありましたが、反省されて当て放題はなくなりました。

沖縄語の書法は確立していませんから、どう書けばよい悪いということはありませんが、沖縄語を子供や若者に普及させようという観点から、学力の低下につながったり、重い学習負担となるような当て方は、好ましくないと思います。

沖縄語は、共通語の中で広めるのではなく、共通語と並ぶもう一つの言語として復活させたいものです。そういう意味で筆者は、前述の「^{わらびぬくる}少年時代」、「^{うちやぬみかた}御喫茶法」などという書き方は、教育上不適切と言っているのです。

筆者は漢字を使う場合の一般的な指針として、沖縄語と共通語の間で音韻的關係があり、意味の係わりもあるような漢字の使用を勧めるものです。例外は幾つかありますが、我々は共通語を知っているので、その知識を沖縄語に有効に活かそうとするものではありません。共通語に従属するものではありません。これはその他の漢字の使用を排除するものではありません。沖縄語の漢字として使用が定着していれば、慣用として使用できるし、どの漢字を慣用とするかは、今後の課題です。

沖縄語に関する船津好明の最近の論文リスト

- ・ 沖縄語普及の一層の推進について (9枚) 2007年3月5日
- ・ 沖縄語普及協議会の書法の試行結果について (4枚) 2007年3月6日
- ・ 沖縄語の学習のための漢字の使い方の例 (5枚) 2007年3月28日
- ・ 沖縄語の中の漢字への振り仮名と送り仮名の例 (2枚) 2007年4月11日
- ・ 沖縄語の学習のための漢字について (第1次案) (3枚) 2007年4月17日
- ・ 沖縄語の表記における長音の表し方について (3枚) 2007年4月29日
- ・ 沖縄語の表記における旧仮名の活用について (5枚) 2007年5月5日
- ・ 沖縄語の学習のための漢字について (第2次案) (5枚) 2007年5月6日
- ・ 沖縄語の学習における小書き文字の問題 (3枚) 2007年5月14日
- ・ 沖縄語の音声における母音の出現頻度について (4枚) 2007年5月26日

照会先：〒1870002 東京都小平市花小金井2-6-1

船津好明

Tel/Fax 042-467-1273

Email funatsu@mfv.biglobe.ne.jp